

美味しい「だだちゃ豆」を生産し、庄内の魅力を県内外へ発信
～大豆栽培キットを活用した食育により、小学生へ「命の授業」を展開～

有限会社いとうファーム
代表取締役 伊藤稔（鶴岡市）

1 受賞者の概要

鶴岡市矢馳地区において平成15年に法人化し、現在、水稻15ha、えだまめ8ha、なめこ約34万瓶の3品目を中心に栽培を行い、社員8名を通年雇用している。経営理念として「堅実でバランスの良い経営」を掲げ、リスク分散に配慮した農業経営を実践している。本経営体は地域生産者の参考となり、えだまめ栽培の規模拡大や、堅実な生産管理の模範となっている。

また、自社で開発した大豆栽培キットを活用し、首都圏を中心に小学校約50校で食育活動に取り組んでいる。



調理実習指導を行う伊藤代表

2 特色ある活動

(1) 本当に美味しい「だだちゃ豆」を栽培するための取組み

だだちゃ豆の食味向上のため、特に「土づくり」に力を入れている。植物体に窒素を供給する根粒菌の働きを促進するため、中耕・培土（土寄せ）を6回以上実施することにより、圃場全体の1/3は窒素施用を行わない栽培が可能となっている。

種子は専用圃場を設けて採種しており、社員による食味試験を毎年実施することで良食味の優良種子を選抜している。次年度分の種子は、発芽率のバラつき等に対応するため2年分を保管しており、秘蔵の種子を守り続けている。このような努力が実を結び、伊藤氏のだだちゃ豆を始めて食べたお客様が「この世のものとは思えないほどおいしい！」と評するほどの食味を誇っている。



中耕・培土の作業風景

(2) 大豆栽培キット開発により小学生へ「命の授業」を展開

伊藤氏自ら開発した大豆栽培キットを活用し「命の授業」として、命の大切さを伝える食育の取組みを行っている。豆腐や味噌の調理実習や大豆の授業も行いながら、農業が果たす「食・命の大切さ」を児童に伝え続けている。

(3) 経営安定化のため経営理念に基づき3本柱の品目を栽培

経営を見つめ直すことで、自身に適した規模拡大を50年間継続している。現在は基幹3品目を柱とする経営を法人化することで、福利厚生を整備し従業員が安心して働ける環境整備を図り、周年農業を確立している。

3 今後の発展方向

だだちゃ豆はJA・鶴岡市と連携しながら規模拡大を行い、地域と共にブランド価値の維持・発展を目指していく。また、転作作物として野菜品目の規模拡大を行うことにより、水稻栽培が主体である庄内平野の可能性を広げたいと考えている。さらに、将来は若い社員に経営を継承することで、地域にしっかり腰を据え、県内外へ鶴岡市の魅力を発信する新たな経営発展を期待している。



伊藤代表と社員一同